

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私は元々国公立大学を目指していたのですが、私立大学の中で一番行きたい学校を考えたときに、オープンキャンパスで同志社女子大学が好印象だったことを思い出し、進学を決めました。
また、母が同志社大学出身なので、同志社系列への憧れの気持ちも強かったです。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

3年生の1学期に志望校が定まったら、公募推薦用の小論文対策を始めました。
また、苦手な数学と、英語の記述問題を中心に解いていました。
この頃から、平日の朝、授業の前に1時間地理の勉強をする習慣をつけた。約1年間それを続けました。

〔夏休み〕

夏は英語の長文を持続的にやるようにし、英単語や基本構文の暗記など、英語を中心に頑張りました。
化学・生物も学校のテキスト以外であまり勉強していきなかつたため、テキストをそれぞれ1冊ずつ用意してやり込んでいました。
どうしても勉強の気分になれないときは、とりあえずの気持ちで学校に行ってみたり、友人を誘って、気分転換をしながら一緒に勉強したりしていました。

〔2学期～入試直前〕

2学期からは、国公立大学の推薦対策に力を入れ、私立も含めて推薦入試が終わった後からは、センター試験対策をしています。この頃から塾にも通うようになり、今まで以上に必死になって勉強していました。しかし、センター試験で、得意科目の点数が非常に悪く、センター試験の1週間後に同志社女子大学の入試があったにも関わらず、とても落ち込んでしまい、2日間ほとんど勉強に手がつけられなくなってしまいました。私立対策をほとんどしていないから、焦ってしまった場面もありました。同志社女子大学の入試4日間も欠かさず単語を覚え直していました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は、クラブ活動はしていないからなのですが、高校の文化祭や体育祭には全力を出して、思い出作りに頑張りました。健康面については、入試前は毎日ヨーグルトを食べていました。風邪を引いたときは、続けて勉強するのはよく、平日しっかり休んでから、勉強を再開していました。
私もほとんどスマートフォンを触る時間が多く、全く触らないうちにあることはできなかつたので、家に帰ってからは電源を切るようにしたり、ご飯を食べる時だけ動画やテレビを見る、テレビの工夫をしてみました。
スランプ時は、動画投稿サイトにアップロードされている学習動画を観たり、身近な人に相談するなどで、気持ちを常にスッキリさせるようにしていました。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験勉強は辛いことばかりはいっぱいあると思います。しかし、それを乗り越えてこそ自分の夢が手に入ると思います。
私は、最後まで自分の第一志望への勉強ができたので、受験を終えてしまえば毎日の思いを忘れてしまいました。
自分に甘くなってしまうけれど、負けずに、自身を追い込んで、自分にとっての最善の受験ができるように頑張ってください。